

## 食肉の生食による食中毒防止の普及啓発パイロット事業 アンケート結果

### 1 調査方法

#### (1) 対象及び方法

都内の保育園・幼稚園 25 施設の保護者を対象として、子どもが食肉を生で食べて食中毒になると重症化しやすいことを示したリーフレットを配布した。リーフレットと同時に、そのリーフレットに対するアンケートも配布し、後日回収を行った。

#### (2) 調査期間

平成 21 年 6 月 26 日から平成 21 年 8 月 3 日まで

### 2 調査結果

#### (1) 回答者の属性

男女の比率は、男性 69 人 (4%)、女性 1502 人 (94%)、不明 24 人 (2%) であった (図 4-1)。

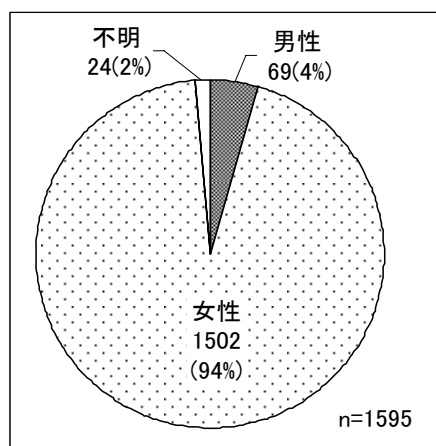


図 4-1 性別 (n=1595)

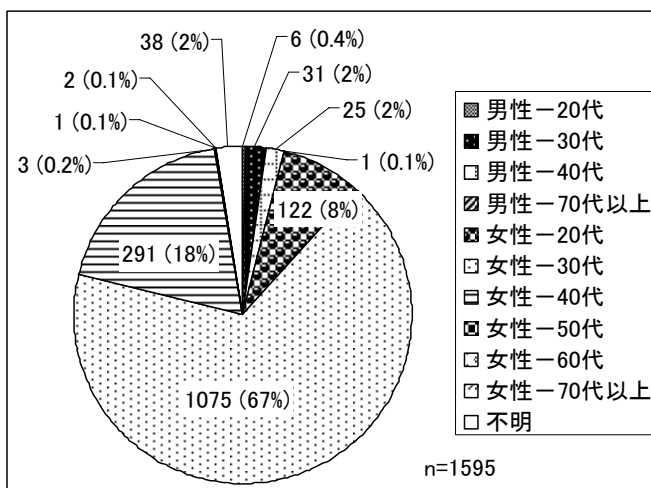


図 4-2 性別年代 (n=1595)

回答者の性別年代の比率は、20代男性 6 人 (0.4%)、30代男性 31 人 (2%)、40代男性 25 人 (2%)、70代以上の男性 1 人 (0.1%)、20代女性 122 人 (8%)、30代女性 1075 人 (67%)、40代女性 291 人 (18%)、50代女性 3 人 (0.2%)、60代女性 1 人 (0.1%)、70代以上の女性 2 人 (0.1%)、不明 38 人 (2%) であった (図 4-2)。

#### (2) 食肉を生で食べているかどうか

直近 3 ヶ月に食肉を生で食べたことがあるかを尋ねたところ、食べたことがある人は 213 人 (13%)、食べたことがない人は 1377 人 (86%)、不明 5 人 (0.3%) であった (図 4-3)。

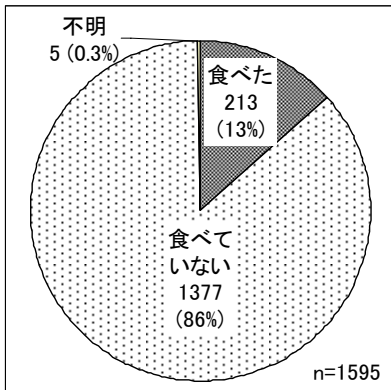


図 4-3 3ヶ月以内に食肉を生で食べたか (n=1595)

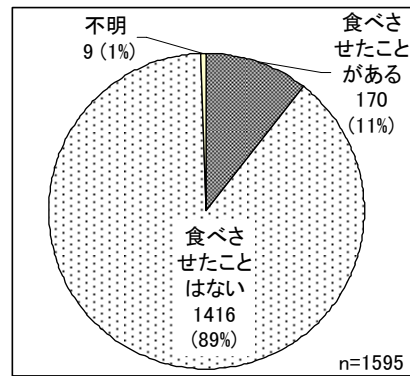


図 4-4 これまでに子どもに食肉を生で食べさせたことがあるか (n=1595)

(3) 子どもに食肉を生で食べさせたことがあるか

これまでに、子ども（もしくは孫）に食肉を生で食べさせたことがあるかどうかを尋ねたところ、「食べさせたことがある」170人（11%）、「食べさせたことはない」1416人（89%）、「不明」9人（1%）であった（図 4-4）。

(4) リーフレットの内容について

リーフレットの内容を、リーフレットを見る以前に知っていたかどうかについて、項目ごとに尋ねた（図 4-5）。

「新鮮だから生でも安全は間違いです」について、「よく知っていた」が 339 人（21%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」が 743 人（47%）、「知らなかった」は 504 人（32%）、「不明」が 9 人（1%）であった。

「子どもが生肉を食べるととくに危険です」について、「よく知っていた」が 417 人（26%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」が 658 人（41%）、「知らなかった」は 511 人（32%）、「不明」が 9 人（1%）であった。

「どんなもの？お肉の生食による食中毒」について、「よく知っていた」が 250 人（16%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」が 895 人（56%）、「知らなかった」は 439 人（28%）、「不明」が 11 人（1%）であった。

「お肉の生食による食中毒を防ぐために」について、「よく知っていた」が 531 人（33%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らなかった」が 807 人（51%）、「知らなかった」は 243 人（15%）、「不明」が 14 人（1%）であった。

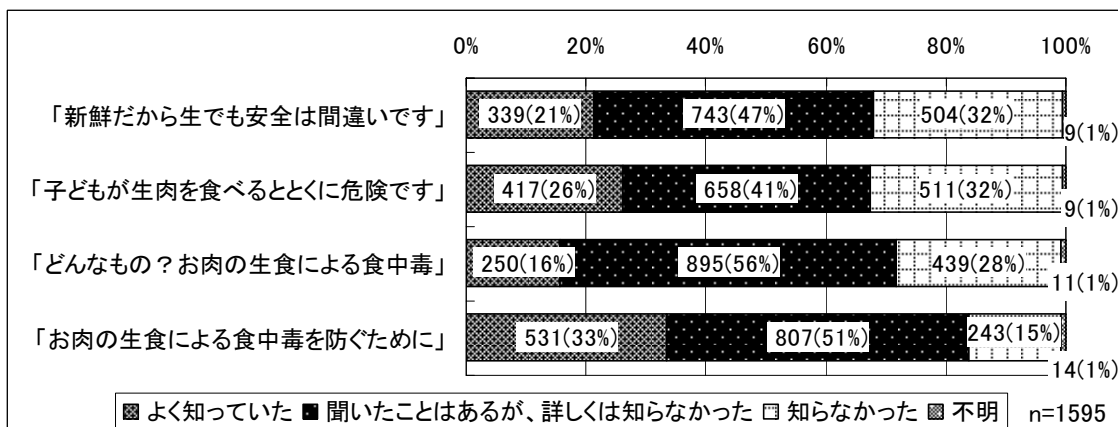


図 4-5 リーフレットの内容について、リーフレットを見る前に知っていたかどうか (n=1595)

(5) 今後、食肉を生で食べるかどうか

リーフレットを通じて、食肉を生で食べると食中毒になる可能性があることを回答者に示した上で、今後、食肉を生で食べようと思うかどうかを聞いたところ、「思う」が 96 人 (6%)、「どちらかといえば思う」が 197 人 (12%)、「どちらかといえば思わない」が 628 人 (39%)、「思わない」が 666 人 (42%)、「不明」が 8 人 (1%) であった (図 4-6)。

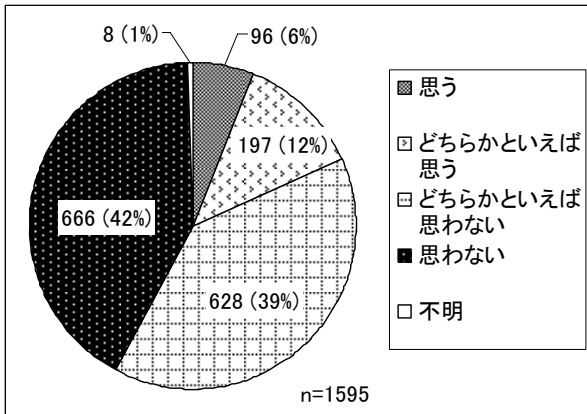


図 4-6 今後、食肉を生で食べるか (n=1595)

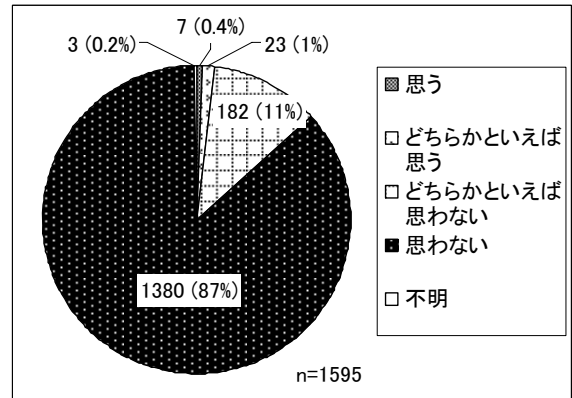


図 4-7 今後、子どもに食肉を生で食べさせるか (n=1595)

(6) 今後、子どもに食肉を生で食べさせるかどうか

リーフレットを通じて、子どもが食肉を生で食べて食中毒になると重症化しやすいことを回答者に示した上で、今後、子どもに食肉を生で食べさせようと思うかどうかを聞いたところ、「思う」が 7 人 (0.4%)、「どちらかといえば思う」が 23 人 (1%)、「どちらかといえば思わない」が 182 人 (11%)、「思わない」が 1380 人 (87%)、「不明」が 3 人 (0.2%) であった (図 4-7)。

(7) 今後、食肉を生で食べるリスクを伝えようと思うかどうか

今後、食肉を生で食べようとしている家族や友人に、食中毒になる可能性があることを伝えようと思うかを聞いたところ、「思う」が 629 人 (39%)、「どちらかといえば思う」が 753 人 (47%) と、合計して 86% の人が家族や友人にリスクを伝えると回答した (図 4-8)。

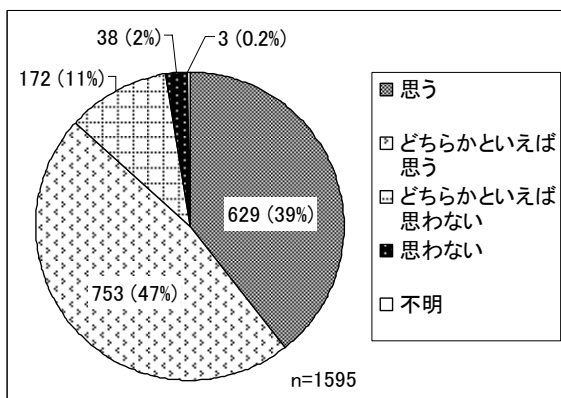


図 4-8 今後、食肉を生で食べるリスクを伝えようと思うか (n=1595)

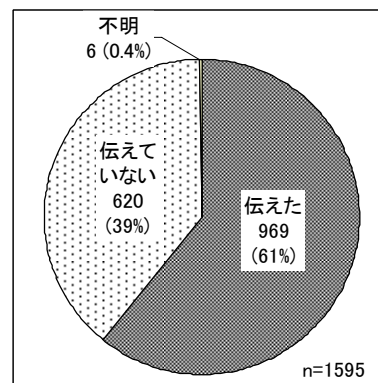


図 4-9 実際にリーフレットの内容を伝えたか (n=1595)

(8)リーフレットの内容を実際に伝えたかどうか

リーフレットを見た後で実際に、家族や友人にこのリーフレットの内容を伝えたかどうかを聞いたところ、「伝えた」が969人(61%)、「伝えていない」が620人(39%)、「不明」が6人(0.4%)であった(図4-9)。

(9)その他(自由意見)

25施設中18施設について、アンケートの最後に自由意見欄を設けたところ、261人から回答があった。

多かった意見としては、「食肉の生食が危険だということを知らなかったので、勉強になった」、「今後、このことを家族や友人に伝えていきたいと思う」などがあった。

また、「飲食店が出すものは安全だと思っていた」、「なぜ危険なものが飲食店で出てくるのか。食肉の生食が危険というならば、行政で飲食店を取り締まってほしい」、「焼肉店などの飲食店やスーパー等に、注意書きを貼らせるべきである」、「店側でもタバコのように注意書きを入れる等の措置をとらないと(食中毒は)なくなるのでは」、「このことを知らない人がたくさんいると思うので、テレビ等の媒体を利用するなどして、折を見て広く周知していくべきである」、などの意見があった。中には、「子どもが欲しがるので焼肉屋でレバ刺しを食べさせたところ、店の人から、『子どもには、やめてください』と言われたことがあった。善意であることが分かったので、今後は食べさせないようにする」というような意見も1件あった。

さらに、今回のリーフレットを見て、「これまで子どもに生肉料理を与えていたが、今後はもうやめようと思う」、「子どもと父親が、ユッケが好きで時々食べていたが、このリーフレットをもらったことで、本人や父親を説得することができ、助かった」などの意見があった。だが一方で、「子どもに与えるのはやめようと思うが、自分は生肉料理が好きなので、危険が分かっているけど、今後も食べ続けたいと思う」や「生で食べる文化も日本にはあるため尊重されてもいいと思う」などの意見もあった。

その他、「潜伏期間が長いことに驚いた」、「魚介類の生食(刺身)は安全なのか」、「何歳まで生ものに気をつければよいのか」、「大人であれば食肉の生食をしても大丈夫なのか」、「季節を問わず生食はいけないのか」等の意見が多数あった。